

新潟脳神経研究会特別例会の御案内

日時：平成26年4月25日（金）17:00～18:30

場所：脳研究所 1F 検討会議室

1) 線条体アセチルコリン神経伝達 による行動柔軟性の制御

小林 和人 先生

福島県立医科大学医学部
生体機能研究部門 教授

動物は環境の変化に対して行動を柔軟に転換する。前頭前野皮質と線条体を結ぶ神経回路は、行動柔軟性に重要な役割を持つことが知られている。本研究では、トランスジェニックラットを用いた神経回路の研究から、線条体コリン作動性神経細胞は空間認識に基づく学習のスイッチに抑制的な役割を持ち、この機能は主に、ムスカリン性 M4 受容体によって媒介されるという新しい知見について示す。

2) アルファシヌクレイン遺伝子導入 によるパーキンソン病霊長類モデル の開発

高田 昌彦 先生

京都大学霊長類研究所 教授

ウイルスベクターを用いて特定の神経細胞あるいは神経路に外来遺伝子を導入し、遺伝子改変モデルを作出することにより、高次脳機能や精神・神経疾患を解明しようとする研究が近年、注目を集めている。本講演では、このようなアプローチにより、黒質ドーパミン細胞にアルファシヌクレイン遺伝子導入をおこない、パーキンソン病の革新的霊長類モデルを開発した最新の研究成果を紹介する。

どうぞ奮ってご参加ください。

(担当：分子神経生物学分野)
新潟脳神経研究会幹事代表：西澤正豊